

1. 修士課程

[1] 修士課程修了の要件（大谷大学大学院学則第 17 条）

修士課程を修了し、修士（文学）〔教育・心理学専攻は、修士（教育学）〕の学位を得るためには、本学大学院修士課程に2年以上在学し、**所定の単位を修得**し、かつ必要な研究指導を受けた上で**修士論文を提出**し、その審査及び最終試験に合格することが必要です。

《修士論文》 評価基準

1. 研究目的・研究対象が明確であり、研究方法が適切であるか。
2. テキスト・資料の扱いが的確かつ厳正であるか。
3. 基本的先行研究を踏まえているか。
4. 興味深い考察を展開し、新たな知見を提示しているか。

[2] 修了単位

単位は15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業に対し、講義・演習・文献研究ともに1単位として計算します。課程の修了単位は下記のとおり学則に定められています。

【修士課程(教育・心理学専攻以外の専攻)】科目履修単位表 **[2015年度以降入学生適用]**

区分	集計先コード	最低履修単位数	科目名
基礎科目	11000	2	「仏教の視点」
	11010	2	「専攻交流演習Ⅰ」
専攻科目	11110	8	「特殊研究（演習）」
選択科目	11121	4	「特殊研究（論文指導）」
	11122	14	専攻科目中の「特殊研究（演習）」以外の科目及び選択科目
学位論文	12100	—	修士論文
合計		30	
外国語認定	20099	—	
学部開講科目	21000	—	

【修士課程(教育・心理学専攻)】科目履修単位表 **[2017年度以降入学生適用]**

区分	集計先コード	最低履修単位数	授業科目名
基礎科目	11000	2	「仏教の視点」
	11010	4	「教育学総論（講義）」・「心理学総論（講義）」
専攻科目	11110	8	「教育・心理学特別研究Ⅰ・Ⅱ」
選択科目	11122	16	専攻科目中の「教育・心理学特別研究Ⅰ・Ⅱ」以外の科目及び選択科目
学位論文	12100	—	修士論文
合計		30	
外国語認定	20099	—	
学部開講科目	21000	—	

[3] 履修計画

(1) 履修体系

[2015年度以降入学生適用]

修士課程のカリキュラムは、基礎科目・専攻科目・選択科目の3つの科目群からなり、それぞれに必修単位数（履修条件）が設定されています。

◎基礎科目（4単位）【教育・心理学専攻は6単位】

基礎科目は、「仏教の視点」（2単位）と「専攻交流演習Ⅰ」（2単位）【教育・心理学専攻は「教育学総論」又は「心理学総論」（4単位）】からなり、それぞれ修了要件として課されています。いずれも第1学年に履修してください。

◎専攻科目（8単位）

修了要件という専攻科目とは、指導教員の「特殊研究（演習）」【教育・心理学専攻は「教育・心理学特別研究」】をいい、各学年において4単位（2年間で8単位）履修することによって必要単位数は充足されます。

◎選択科目（18単位）【教育・心理学専攻は16単位】

選択科目は、「特殊研究（論文指導）」（4単位）と専攻科目の「特殊研究（演習）」以外及び選択科目の中から14単位【教育・心理学専攻は専攻科目の「教育・心理学特別研究」以外及び選択科目の中から16単位】を2年間で履修してください。（第3章「6. 学術交流について」「7. 安居を正規授業に認定」も参照のこと。）

なお、本学博士後期課程への進学を考えている方は、選択科目の「語学文献研究」の単位を履修するよう心がけてください。

(2) 第1学年での履修単位数

[2015年度以降入学生適用]

第1学年では、専攻科目の指導教員の演習「特殊研究（演習）」（4単位）【教育・心理学専攻は「教育・心理学特別研究」】、基礎科目の「仏教の視点」（2単位）及び「専攻交流演習Ⅰ」（2単位）【教育・心理学専攻は「教育学総論」又は「心理学総論」（4単位）】を含み履修するよう心がけてください。

(3) 長期履修許可者について

長期履修（3年計画・4年計画）許可者は、修了所要科目の履修登録単位について、下記のように制限があります。

<3年計画>

1年目	2年目	3年目
16単位まで	16単位まで	制限なし

<4年計画>

1年目	2年目	3年目	4年目
12単位まで	12単位まで	12単位まで	制限なし

資格取得に関する科目等の履修については、修士課程修了に支障がない範囲で指導教員と相談のうえ、計画的に履修してください。

長期履修期間については、在学中1回に限り期間を短縮することができます。（延長はできません。）期間短縮を希望する場合は、教務課まで相談してください。

(4) 修士論文の提出

修士論文を提出するには、本学修士課程に1年以上在学し、当該学年中に、修了に必要な単位をすべて履修しうる見込みであることが条件となります。

(5) 進級

第1学年において、無単位もしくは在学期間が1年に満たない場合は、原級留置となります。

I. 履修要領

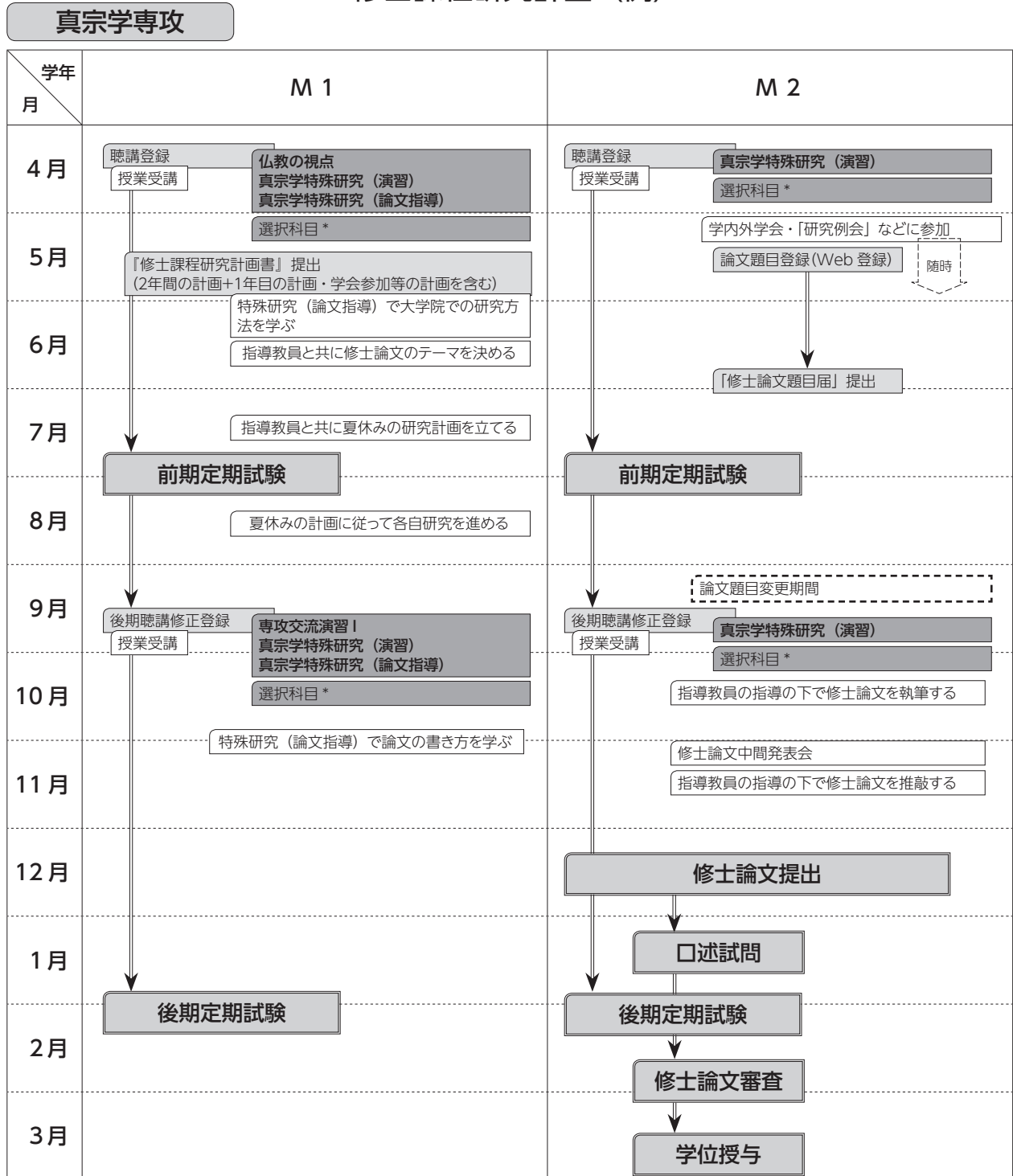
教育研究目的	目的
	教育目標および教育方針
	各専攻の人物養成の目的
修了要件及び開講科目表	各専攻の目的と目標
	修士課程
聴講登録（成績評価）	博士後期課程
	開講科目表
	単位修得の認定
	聴講登録
	授業時間
	試験
	成績評価
	学術交流について
	安居を正規授業に認定
	大谷大学学位規程
規程集	大谷大学大学院履修規程
	真宗大谷派教師課程

II. 資格の取得

真宗大谷派教師課程

巻末 科目担当者一覧表

修士課程研究計画（例）



【関連学会名（開催時期）】

真宗学会例会（7月～12月）、大谷学会（5月・10月）、真宗連合学会（6月）、真宗教学学会（7月）

選択科目*：真宗大谷派の安居が「文献研究」として開講されていますので、積極的に受講してください。また博士後期課程に進学希望している人は、語学文献研究英語・ドイツ語・フランス語・中国語を受講することが望まれます。

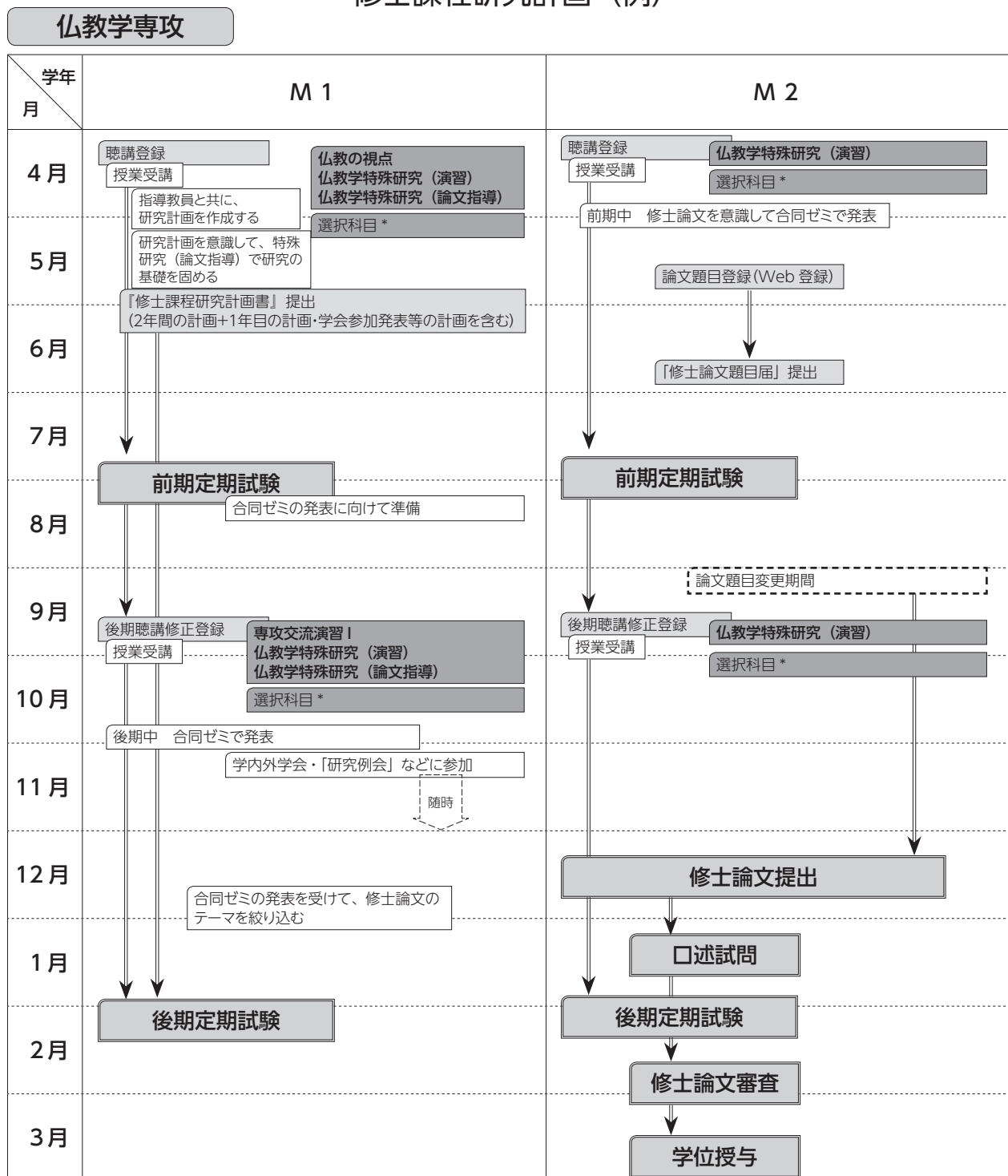
I. 履修要領

教育研究目的	目的
	教育目標および教育方針
	各専攻の人物養成の目的
	各専攻の目的と目標
修了要件及び開講科目表	修士課程
	博士後期課程
	開講科目表
聴講登録（成績評価）	単位修得の認定
	聴講登録
	授業時間
	試験
	成績評価
	学術交流について
	安居を正規授業に認定
	規程集
	大谷大学学位規程
	大谷大学大学院履修規程

II. 資格の取得

真宗大谷派教師課程

修士課程研究計画（例）



【関連学会名（開催時期）】
 大谷大学仏教学会、日本印度学仏教学会（9月）、日本仏教学会（9月）、日本宗教学会（9月）

【関連学会誌】
 『佛教学セミナー』『印度学仏教学研究』『宗教研究』

選択科目*：博士後期課程に進学希望している人は、語学文献研究英語・ドイツ語・フランス語・中国語を受講することが望ましい。

巻末
科目担当者一覧表

修士課程研究計画（例）

哲学専攻

学年 月	M 1	M 2
4月	聴講登録 授業受講 仏教の視点 哲学特殊研究（演習） 哲学特殊研究（論文指導） 選択科目*	聴講登録 授業受講 哲学特殊研究（演習） 選択科目*
5月	「修士課程研究計画書」提出 （2年間の中心テーマを定め、1年目の計画を立てる）	修士論文作成の計画を立て、論文題目を確定する。また、学内学会などに参加する 論文題目登録（Web登録）
6月	特殊研究（論文指導）で大学院での研究方法を学ぶ 学内学会などに入会・参加する	特殊研究（演習）で修士論文の基礎となる研究を発表する 「修士論文題目届」提出
7月	特殊研究（演習）で研究の取り組みと展望を発表する 前期定期試験	前期定期試験
8月	夏休みの計画に従って各自研究を進める	夏休みの計画に従って各自研究を進め、修士論文の構想を練る 論文題目変更期間
9月	後期聴講修正登録 授業受講 専攻交流演習Ⅰ 哲学特殊研究（演習） 哲学特殊研究（論文指導） 選択科目*	後期聴講修正登録 授業受講 哲学特殊研究（演習） 選択科目*
10月	特殊研究（論文指導）で論文の書き方を学ぶ	特殊研究（演習）で修士論文の前半部を発表する 指導教員の指導の下で修士論文の執筆作業を進める 特殊研究（演習）で修士論文の後半部を発表するとともに、論文全体の仕上げをする
11月	特殊研究（演習）でこれまで進めてきた研究を発表する	修士論文提出
12月		口述試問
1月	後期定期試験	後期定期試験
2月	春休みの計画に従って各自研究を進める	修士論文審査
3月	学内学会の研究会に参加する	学位授与

【学会について】

哲学、倫理学、宗教学の各分野にわたって関連学会や研究会は多数あり、開催時期もさまざまである。修士課程では修士論文を中心とした研究に専念し、学会については、さしあたり学内の大谷哲学会への参加で十分と思われるが、各自の研究テーマにより、必要に応じて学外の学会や研究会に参加することも有益と考えられる。その際は指導教員と相談の上、各自、適切な参加学会を決めること。

選択科目*：博士後期課程に進学希望している人は、語学文献研究英語・ドイツ語・フランス語を受講することが望ましい。

I. 履修要領

教育研究目的	目的
	教育目標および教育方針
	各専攻の人物養成の目的
修士課程	博士後期課程
	開講科目表
聴講登録	単位修得の認定
	聴講登録
聴講登録(成績評価)	授業時間
	試験
	成績評価
	学術交流について
規程集	安居を正規授業に認定
	大谷大学学位規程
	大谷大学大学院履修規程

II. 資格の取得

真宗大谷派 教師課程	
巻末	科目担当者一覧表

修士課程研究計画 (例)

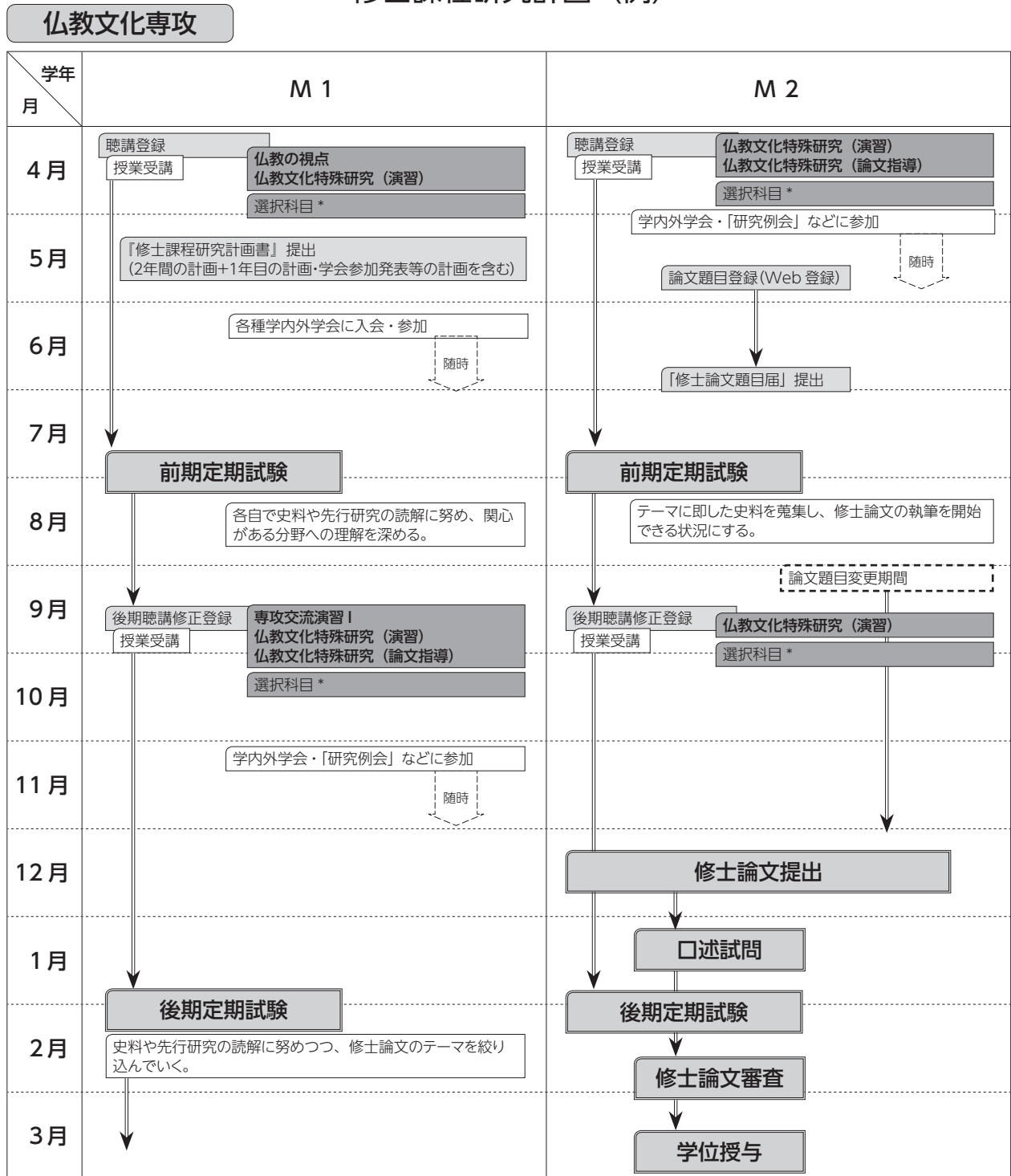
学年 月	M 1	M 2
4月	聴講登録 授業受講 仏教の視点 社会学特殊研究 (演習) : ゼミ 社会学特殊研究 (論文指導) 社会学特殊研究I・II 社会学研究 選択科目*	聴講登録 授業受講 社会学特殊研究 (演習) : ゼミ 社会学特殊研究 (論文指導) 継続履修 推奨 社会学特殊研究II 選択科目*
5月	【修士課程研究計画書】提出 (2年間の計画+1年目の計画。社会調査実施の有無、修士修了後の進路予定も含む)	修論題目を指導教員と相談し決める 論文題目登録(Web登録)
6月	特に博士後期課程進学希望者は、関連学会・研究会・学術雑誌について情報収集し、指導教員等と相談 (下段参照) 修論テーマ・研究方向・研究方法について指導教員と相談。文献リスト作成・文献資料収集	ゼミ等で研究進行状況、修論執筆計画を発表 (本調査実施者はデータ分析考察を進める)。 【修士論文題目書】提出
7月	夏期休暇中の研究計画を、指導教員等と相談し作成 (調査有の場合：夏期予備調査の実施計画必要)	修論草稿執筆開始。(調査有の場合：補足調査計画について指導教員と相談)
8月	前期定期試験 計画に従って各自研究を進める	前期定期試験 資料収集・補足調査・論文草稿執筆
9月	専攻交流演習I 社会学特殊研究 (演習) : ゼミ 社会学特殊研究 (論文指導) 社会学特殊研究I・II 社会学研究 後期聴講修正登録 授業受講 選択科目*	後期聴講修正登録 授業受講 社会学特殊研究 (演習) 社会学特殊研究 (論文指導) 継続履修 推奨 選択科目*
10月	第1学年前半の研究の総括。以降の研究計画の修正の有無等を指導教員と相談 前期に引き続き、ゼミ等で研究進行状況等を適宜発表、授業内外で指導教員等との意見交換の機会を積極的に持つようにすること。 (調査有の場合：夏期予備調査の総括と本調査計画の作成を、指導教員と進める。研究倫理の観点から計画を精査する必要がある。データ分析や補足調査の必要を考えると、本調査実施の時期は、第1学年後半から春季休暇の間が望ましい。)	指導教員の指導のもとで、修士論文草稿を執筆する。適宜、指導教員の指導のもとで、推敲する。題目・章構成等を含めて練り直す。 論文題目変更届提出期限
11月		修士論文提出
12月		口述試問
1月		後期定期試験
2月	後期定期試験	修士論文審査
3月		学位授与

【関連学会名 (開催時期)】
 大谷哲学会 (5月)、関西社会学会 (5月)、日本社会学会 (11月)、日本文化人類学会 (5月) 他

【関連学会誌】
 『大谷大学哲學論集』『ソシオロジ』『社会学評論』『文化人類学』他

選択科目*：博士後期課程進学を希望している人は、語学文献研究の英語・ドイツ語・フランス語・中国語を、指導教員と相談のうえ受講することが望ましい。

修士課程研究計画（例）



【関連学会名（開催時期）】

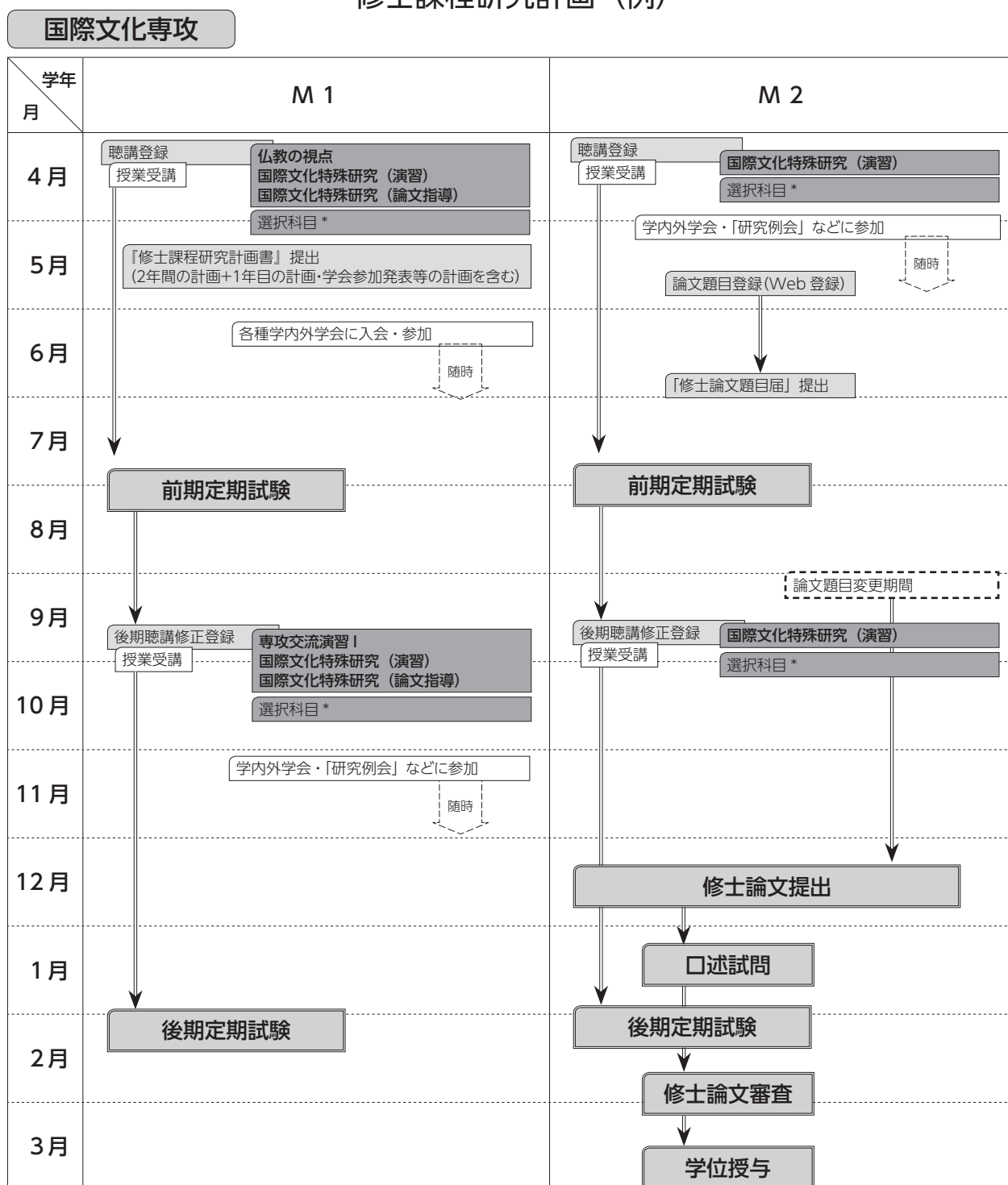
大谷大学日本史の会、大谷大学文藝学会、大谷大学国文学会、大谷大学中国文学会、佛教史学会

【関連学会誌】

『大谷大學史學論究』『歴史の広場—大谷大学日本史の会会誌』『文藝論叢』

選択科目*：博士後期課程に進学希望している人は、語学文献研究英語・ドイツ語・フランス語・中国語を受講することが望ましい。

修士課程研究計画（例）



【関連学会名（開催時期）】

日本国際文化学会（7月）、日本比較文化学会（6月）、日本比較生活文化学会（11月）、比較思想学会（6月）、英米文化学会（3月・6月・11月）、日本英文学会（5月）、日本英文学会関西支部（12月）、日本フランス語フランス文化学会（5月・10月）、日本フランス語フランス文学会 関西支部大会（11月）、日本独文学会（5月・10月）、日本独文学会京都支部（6月・11月）、日本チベット学会（10月）、日本中国学会（10月）、日本印度学仏教学会（9月）、比較文明学会（11月）

選択科目*：博士後期課程に進学を希望している人は、「語学文献研究」（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）を受講することが望ましい。

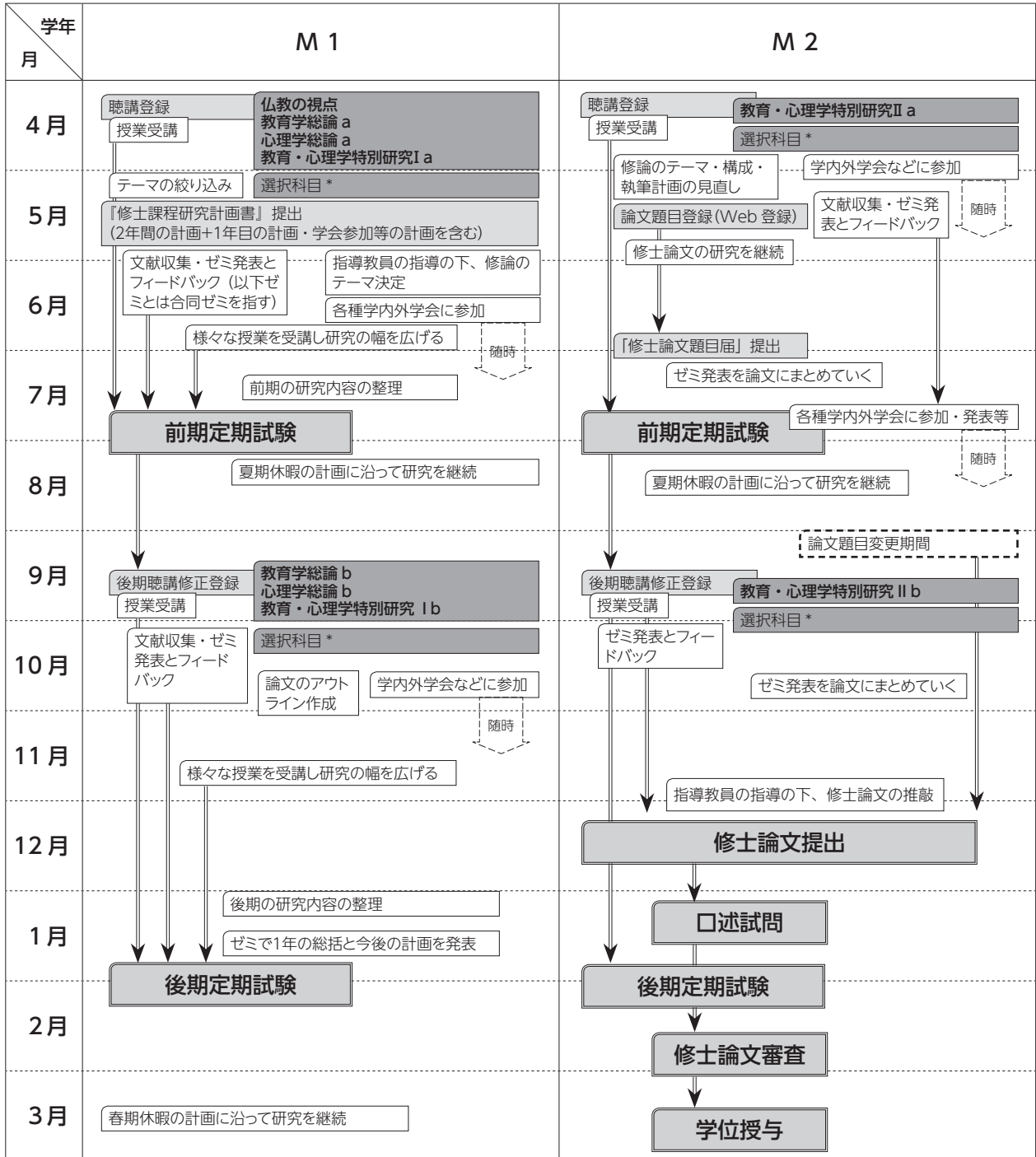
I. 履修要領

目的	教育目標および教育方針
教育研究目的	各専攻の人物養成の目的 各専攻の目的と目標
修了要件及び開講科目表	修士課程 博士後期課程 開講科目表
聴講登録	単位修得の認定 聴講登録 授業時間 試験 成績評価
規程集	学術交流について 安居を正規授業に認定 大谷大学学位規程 大谷大学大学院履修規程
II. 資格の取得	
	真宗大谷派教師課程

巻末 科目担当者一覧表

修士課程研究計画（例）

教育・心理学専攻



【関連学会名（開催時期）】

関西教育学会（11月）、日本学校心理学会（9月）、大谷大学教育・心理学会等の学内学会

【関連学会誌】

『関西教育学会研究紀要』『学校心理学研究』『人間形成論研究』等

選択科目*：博士後期課程に進学希望している人は、語学文献研究英語・ドイツ語・フランス語・中国語を受講することが望ましい。

[4] 修士論文提出のための手続き

【第1学年】

修士課程研究計画書 ----- 指導教員と相談のうえ、研究テーマを決定し、所定の「**修士課程研究計画書**」(指導教員の承認印をもらうこと)を**5月31日(木)**までに教務課へ提出してください。

【第2学年】

聴講登録 ----- 提出する年度の登録時に、授業科目と同様に「**修士論文**」を登録してください。

論文題目登録 ----- 指導教員と相談のうえ、修士論文題目を決定し、下記の日程までに各自で「OTANI UNIPA」の「**論文題目登録**」より登録をしてください。
◎詳細については、「OTANI UNIPA」で確認してください。

題目変更について ----- 題目登録締切後に題目を変更する場合は、指導教員と相談のうえ、下記の日程までに各自で「OTANI UNIPA」の「**論文題目登録**」より変更を行ってください。
なお、パソコン等を使用して作成する人で、所定の書式以外で論文を提出する場合は、「**書式所定外作成届**」も同じ日時までに提出してください。(「書式所定外作成届」の所定用紙は、教務課で配付します。)

提出 ----- 下記の期限までに、**正本(自筆)および副本(コピー可)**を各**1部**教務課へ提出してください。
遅れた場合は一切受領しませんので十分注意してください。
なお、この時所定の「**学位授与申請書**」を同時に提出してください。

[2018年度 修士論文提出関係締切日程]

	題目届	題目変更届	修士論文提出
前期修了	5月7日(月) 17:00まで	6月25日(月) 17:00まで	7月2日(月) 16:00 厳守
学年末修了	7月2日(月) 17:00まで	12月3日(月) 17:00まで	12月10日(月) 16:00 厳守

※前年度以前に既に題目を提出しており、かつ、その題目に変更がない場合は、再度登録する必要はありません。
ただし、指導教員を変更する場合は再度登録してください。

※修士論文の様式

『修士論文作成の手引』を参照してください。(5月上旬「OTANI UNIPA」にて配信予定)
2016年度以降入学生 [字数 40,000字以内] 2015年度以前入学生 [字数 80,000字以内]

※口述試問

- ①修士論文提出後、口述試問が実施されます。この審査に合格しなければ課程の修了はできません。
- ②口述試問は、1月中旬から実施されます。詳しい日程表は教務課掲示板に発表します。
(個別には連絡しません。必ず自分で確認してください。)

I. 履修要領

教育研究目的	目的
	教育目標および教育方針
	各専攻の人物養成の目的 各専攻の目的と目標
修了要件及び開講科目表	修士課程
	博士後期課程
	開講科目表
聴講登録(成績評価)	単位修得の認定
	聴講登録
	授業時間
	試験
	成績評価
	学術交流について
	安居を正規授業に認定
規程集	大谷大学学位規程
	大谷大学大学院履修規程
II. 資格の取得	
真宗大谷派教師課程	

巻末 科目担当者一覧表

2. 博士後期課程

[1] 博士後期課程修了の要件 (大谷大学大学院学則第 18 条)

博士後期課程を修了し、博士 (文学) の学位を得るためには、次の要件を充たさなければなりません。

- ① 本学大学院博士後期課程に3年以上在学し、**所定の単位を修得**し、かつ必要な研究指導を受けた上で**博士論文を提出**し、その審査及び最終試験に合格すること。

《博士論文》 評価基準

1. 研究目的・研究対象が明確であり、研究方法が適切であるか。
2. テキスト・資料の扱いが的確かつ厳正であるか。
3. 基本的先行研究及び最新の研究を踏まえているか。
4. 厳密な考察を展開し、独創的な知見を提示しているか。

- ② 研究に必要な**2カ国語以上の外国語に通じていること**。(「[4] 外国語学力認定」参照)

③ **[2017年度以降入学生適用]**

「研究業績書」提出時に、主題に関する学術論文が「大学院研究紀要」を含め**2点以上**公刊されている又は学位授与予定月の末日までに公刊の見込みがあること。

[2016年度以前入学生適用]

「研究業績書」提出時に、主題に関する学術論文が「大学院研究紀要」を含め**3点 (留学生は2点) 以上**公刊されている又は学位授与予定月の末日までに公刊の見込みがあること。

※公刊見込みの場合、学位授与予定の2カ月前 (1月・7月) に初校のコピーを教務課に提出してください。

博士論文の提出については「[6] 博士論文提出のための手続き」に従って申請してください。

[2] 修了単位

単位は15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業に対し、講義・演習・文献研究ともに1単位として計算します。課程の修了単位は下記のとおり学則に定められています。

【博士後期課程 (全専攻)】 科目履修単位表 **[2017年度以降入学生適用]**

区 分	集計先 コード	最低履修 単位数	授業科目名
基礎科目	11000	2 (注1)	「仏教の視点」
専攻科目	11110	12	「特殊研究 (演習)」
選択科目	11120	0	専攻科目中の「特殊研究 I (講義)・ 「特殊研究 II (文献研究)」及び選択科目
	11131	4	「語学文献研究 (英語)」
	11132		「語学文献研究 (独語)」
	11133		「語学文献研究 (仏語)」
11134	「語学文献研究 (中国語)」		
外国語認定	12299	—	2カ国語の学力認定を受けること (注2)
学位論文	12500	—	博士論文
合 計		18	

学 部 開 講 科 目	21000	—	
----------------	-------	---	--

(注1) 本学修士課程において「仏教の思想」又は「仏教の視点」を履修済みの場合は、単位認定されます。

(注2) 選択科目の「語学文献研究 (英語・独語・仏語・中国語の内1カ国4単位)」を修得することにより1カ国語の学力認定を受けることができます。博士後期課程修了のためにはさらにもう1カ国語の学力認定が必要です。詳細については、「[4] 外国語学力認定」を参照してください。

【博士後期課程（全専攻）】科目履修単位表【2016年度以前入学生適用】

区分	集計先コード	最低履修単位数	授業科目名
基礎科目	11000	2 (注1)	*「仏教の思想」
主要科目	11110	12	*「特殊研究Ⅲ（演習）」
関連科目	11120	0	各専攻主要科目中の「特殊研究Ⅰ（講義）」・「特殊研究Ⅱ（文献研究）」及び関連科目
	11131	4	*「外国文化（英語）文献研究」
	11132		*「外国文化（独語）文献研究」
	11133		*「外国文化（仏語）文献研究」
11134	*「外国文化（中国語）文献研究」		
外国語認定	12299	—	2カ国語の学力認定を受けること（注2）
学位論文	12500	—	博士論文
合計		18	

学部 開講科目	21000	—	
------------	-------	---	--

（注1）本学修士課程において「仏教の思想」又は「仏教の視点」を履修済みの場合は、単位認定されます。

（注2）関連科目の「外国文化文献研究（英語・独語・仏語・中国語の内1カ国4単位）」を修得することにより1カ国語の学力認定を受けることができます。博士後期課程修了のためにはさらにもう1カ国語の学力認定が必要です。詳細については、「[4]外国語学力認定」を参照してください。

*2015年度以降に履修した場合は、「仏教の思想」が「仏教の視点」、「特殊研究Ⅲ（演習）」が「特殊研究（演習）」、「外国語文化文献研究」が「語学文献研究」になります。

【3】履修計画

【2017年度以降入学生適用】

(1) 履修体系

博士後期課程のカリキュラムは、基礎科目・専攻科目・選択科目の科目群が設定されています。

◎基礎科目（2単位）

基礎科目は、「仏教の視点」（2単位）が修了要件として課されています。

ただし、本学修士課程において同様の科目を履修している場合は、その単位が認定されます。

◎専攻科目（12単位）

修了要件という専攻科目とは、指導教員の「特殊研究（演習）」をいい、各学年において4単位（3年間で12単位）履修することによって必要単位数は充足されます。

◎選択科目

修了要件という選択科目とは、「語学文献研究（英語・独語・仏語・中国語の内いずれか1カ国語）」（4単位）をいいます。

ただし、本学修士課程において同様の科目を履修している場合は、その単位が認定されます。

なお、博士後期課程修了のためにはさらに1カ国語の認定が必要となります。

上記以外は、修了要件としての必修単位数は設定されていませんが、専攻科目の演習科目以外は選択科目として履修できます。また、学問的視野を広げるためにも、第3章「6.学術交流について」「7.安居を正規授業に認定」も参照して、各自の関心に沿って積極的に履修してください。

【2016年度以前入学生適用】

(1) 履修体系

博士後期課程のカリキュラムは、基礎科目・主要科目・関連科目の科目群が設定されています。

◎基礎科目（2単位）

基礎科目は、「仏教の思想」（2単位）が修了要件として課されています。

ただし、本学修士課程において同様の科目を履修している場合は、その単位が認定されます。

◎主要科目（12単位）

修了要件という主要科目とは、指導教員の「特殊研究Ⅲ（演習）」をいい、各学年において4単位（3年間で12単位）履修することによって必要単位数は充足されます。

◎関連科目

修了要件という関連科目とは、「外国文化文献研究（英語・独語・仏語・中国語の内いずれか1カ国語）」（4単位）をいいます。

ただし、本学修士課程において同様の科目を履修している場合は、その単位が認定されます。

なお、博士後期課程修了のためにはさらに1カ国語の認定が必要となります。

上記以外は、修了要件としての必修単位数は設定されていませんが、主要科目の演習科目以外は関連科目として履修できます。また、学問的視野を広げるためにも、第3章「6. 学術交流について」「7. 安居を正規授業に認定」も参照して、各自の関心に沿って積極的に履修してください。

(2) 進級

◎第1学年において、無単位もしくは在学期間が1年に満たない場合は、原級留置となります。

◎第2学年において、無単位もしくは在学期間が1年に満たない場合は、原級留置となります。

【4】外国語学力認定

博士論文を提出し博士後期課程を修了するためには、2カ国語の「外国語学力認定」を受けていることが必要となります。その内1カ国語は、*選択科目に開講されている「語学文献研究（英語・独語・仏語・中国語の内1カ国語）」（4単位）を履修しなければなりません。さらにもう1カ国語として、次の3通りの内いずれかの方法で「外国語学力認定」を受けてください。

①「語学文献研究」の履修による認定

選択科目（2016年度以前入学生は関連科目）に開講されている「語学文献研究（英語・独語・仏語・中国語の内1カ国語）」（4単位）を履修。ただし、上記ですでに履修している言語以外を履修してください。

本学修士課程において、「外国文化文献研究」又は「語学文献研究」の単位を修得している場合は、単位認定されます。

② 外国語学力確認試験による認定

本学において実施している「外国語学力確認試験」に合格すること。実施するのは、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」の4カ国語です。詳細は11月に公示します。

③ 学問分野の研究態様に応じた言語

学内で審査可能な場合に限り、学問分野の研究態様に応じた言語、または留学生においては日本語を認定することができます。認定を希望する学生は博士後期課程第3学年後期に「外国語学力認定申請書」（所定用紙）を教務課に提出してください。詳細は教務課に問い合わせてください。

※ 2016年度以前入学の留学生は、日本語ではなく母語の認定になります。

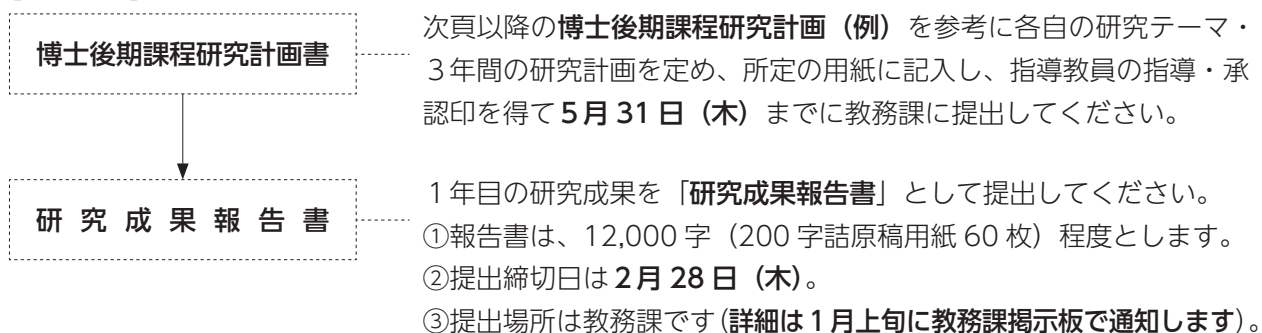
【5】研究指導

博士後期課程においては、研究が中心です。指導教員と相談のうえ、綿密な研究計画を立てて研究計画書を作成してください。研究成果については、下記期日までに「研究成果報告書」として提出してください。

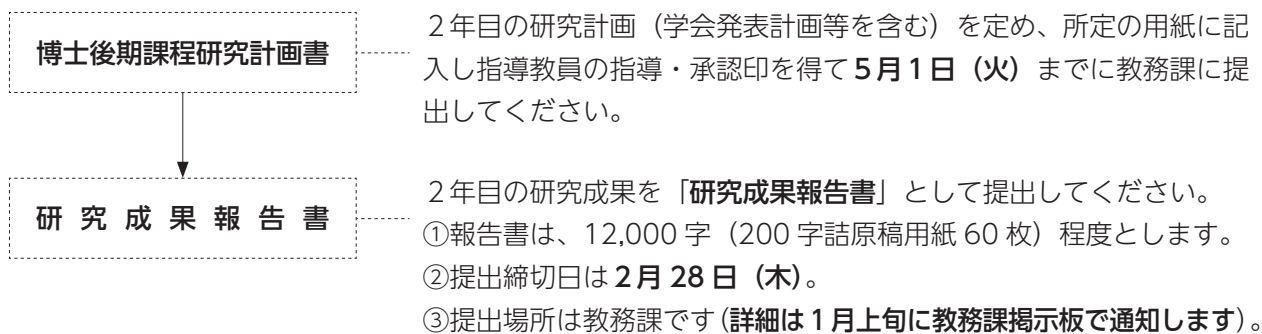
◎『大学院研究紀要』について

『大学院研究紀要』は、学生が研究成果をインターネットによって公表する場です。博士後期課程の学生は、在学中1回に限り『大学院研究紀要』に論文を発表できます。学位請求論文を提出するためには『大学院研究紀要』への論文発表が条件になりますので、必ず発表してください。以下では、第3学年で発表することを例示しています。

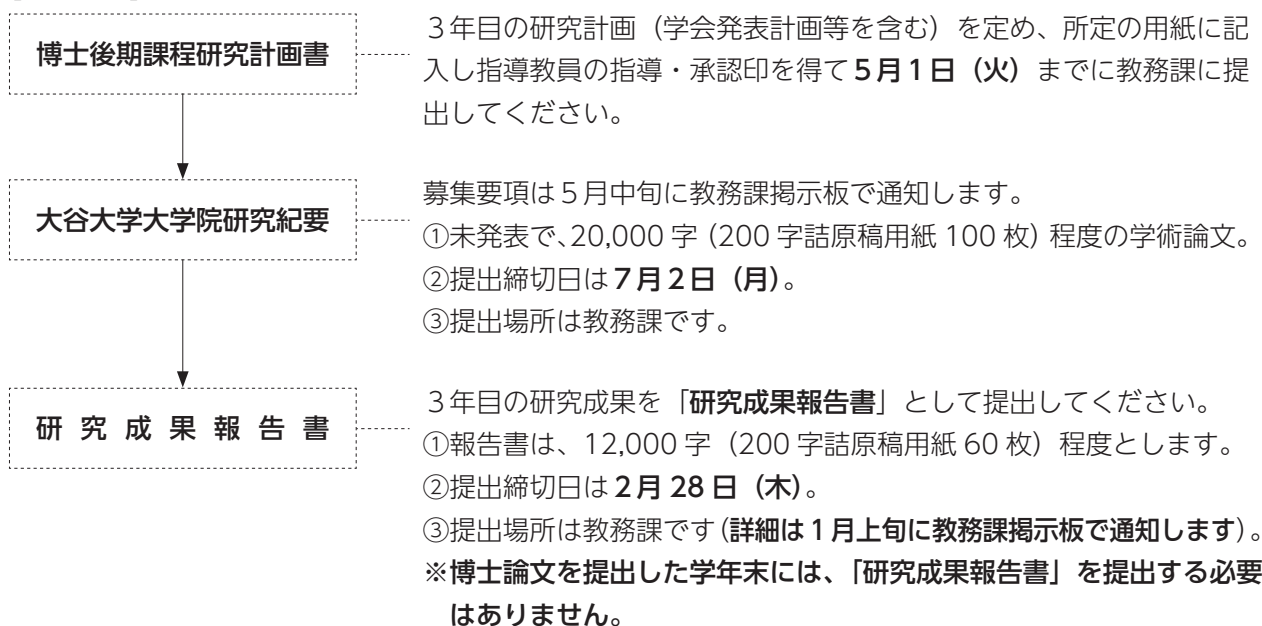
【第1学年】



【第2学年】



【第3学年】



I. 履修要領

教育研究目的	目的
	教育目標および教育方針
	各専攻の人物養成の目的
修了要件及び開講科目表	各専攻の目的と目標
	修士課程
聴講登録(成績評価)	博士後期課程
	開講科目表
	単位修得の認定
	聴講登録
規程集	授業時間
	試験
	成績評価
	学術交流について
	安居を正規授業に認定
真宗大谷派教師課程	大谷大学学位規程
	大谷大学大学院履修規程

II. 資格の取得

真宗大谷派
教師課程

巻末
科目担当者
一覧表

博士後期課程研究計画（例）

真宗学専攻

学年 月	D 1	D 2	D 3
4月	「真宗学研究 5・6 博」（合同ゼミ）に参加・発表		
5月	「博士後期課程研究計画書」提出 （3年間の計画+1年目の計画・学会参加発表の計画を含む） 文献収集（先行研究の確認）	「博士後期課程研究計画書」提出 （2年目の計画・学会発表の計画を含む） 研究計画書に沿って発表準備	「博士後期課程研究計画書」提出 （3年目の計画・学会発表の計画を含む） 研究業績書提出 学位請求論文の作成に着手
6月	修士論文をベースに発表する準備 各種学内外学会に入会・参加 随時	学位請求論文の研究を継続 各種学内外学会に参加・発表 6月～10月 随時	学位請求論文の研究テーマをベースに 「大学院研究紀要」論文をまとめる 各種学内外学会に参加・発表 随時 論文題目提出 「大学院研究紀要」論文を提出
7月	研究課題に沿ったビブリオグラフィ作成 学位請求論文の研究に着手		
8月			
9月			
10月	学内外学会・「研究例会」などに発表・投稿	学内外学会・「研究例会」などに発表・投稿	学位請求論文提出
11月			学位請求論文発表会
12月			「大学院研究紀要」発刊（論文③） 学位請求論文口述試問
1月	学内外学会・「研究例会」に論文を掲載 （論文①）	学内外学会・「研究例会」などの発表を ベースにした論文を掲載（論文②）	学位請求論文審査
2月	1年目の研究成果をまとめ、「研究成果報告書」として提出	2年目の研究成果をまとめ、「研究成果報告書」として提出	
3月			学位授与

【関連学会名（開催時期）】

真宗連合学会（6月）、真宗教学学会（7月）、国際真宗学会（8月～9月）、日本宗教学会（9月）、日本印度学仏教学会（9月）、北海道印度哲学仏教学会（8月～9月）、宗教倫理学会（10月）等

【関連学会誌】

『親鸞教学』、『大谷学報』、『真宗研究』、『真宗教学研究』、『Pure Land』、『宗教研究』、『印度学仏教学研究』、『印度哲学仏教学』等

※「真宗学研究 博」（合同ゼミ）は必修ではありませんができるだけ出席してください。

※真宗大谷派の安居が「文献研究」として開講されていますので、積極的に受講してください。

※3年間では修了できない場合があります。指導教員と相談してください。

I. 履修要領

目的	教育目標および教育方針
教育研究目的	各専攻の人物養成の目的 各専攻の目的と目標
修了要件及び開講科目表	修士課程 博士後期課程 開講科目表
単位修得の認定	聴講登録
聴講登録	授業時間
聴講登録（成績評価）	試験 成績評価
規程集	学術交流について 安居を正規授業に認定 大谷大学学位規程 大谷大学大学院履修規程

II. 資格の取得

真宗大谷派
教師課程

博士後期課程研究計画（例）

学年 月	D 1	D 2	D 3
4月	『博士後期課程研究計画書』提出 (3年間の計画+1年目の計画・学会参加発表の計画を含む)	『博士後期課程研究計画書』提出 (2年目の計画・学会発表の計画を含む)	『博士後期課程研究計画書』提出 (3年目の計画・学会発表の計画を含む) 研究業績書提出 学位請求論文の作成に着手
5月	文献収集（先行研究の確認） 修士論文をベースに発表する準備 各種学内外学会に入会・参加	学位請求論文の研究を継続 各種学内外学会に参加・発表	各種学内外学会に参加・発表
6月	随時	随時	随時 論文題目提出
7月	ビブリオグラフィ作成 学位請求論文の研究に着手	『大学院研究紀要』論文を提出	
8月			
9月	修士論文発表・投稿		
10月			学位請求論文提出
11月			学位請求論文発表会
12月		『大学院研究紀要』発刊（論文②）	学位請求論文口述試問
1月	修士論文をベースにした論文を学術雑誌に掲載（論文①）		
2月	1年目の研究成果をまとめ、『研究成果報告書』として提出	2年目の研究成果をまとめ、『研究成果報告書』として提出	学位請求論文審査
3月	『研究成果報告書』をベースに『大学院研究紀要』論文をまとめる		学位授与

【関連学会名（開催時期）】

日本印度学仏教学会（9月）、日本仏教学会（9月）、日本宗教学会（9月）、パーリ学仏教文化学会（5月）、日本チベット学会（11月）、真宗教学学会（7月）、東海インド学仏教学会（7月）等

【関連学会誌】

『仏教学セミナー』、『大谷学報』、『日本仏教学会年報』、『印度学仏教学研究』、『宗教研究』、『パーリ学仏教文化』、『日本西蔵学会々報』、『真宗教学研究』、『東海佛教』等

※ 3年間では修了できない場合があります。指導教員と相談してください。
合同ゼミは必修ではありませんが必ず出席してください。

巻末
科目担当者
一覧表

博士後期課程研究計画（例）

学年 月	D 1	D 2	D 3
4月	「博士後期課程研究計画書」提出 (3年間の中心テーマを定めて1年目の計画を立てる) (学会参加や研究発表、論文投稿についても計画する)	「博士後期課程研究計画書」提出 (2年目の計画・学会発表の計画を含む)	「博士後期課程研究計画書」提出 (3年目の計画・学会発表の計画を含む)
5月	文献収集（先行研究の確認）	前年の「研究成果報告書」を基礎にして 学外学会誌への論文執筆に着手する	「研究業績書」提出 前年の「研究成果報告書」を基礎にして 『大学院研究紀要』論文をまとめる
6月	特殊研究（演習）で研究の取り組みと 展望を発表する 各種学会に入会・参加	学位請求論文の構想を練る 各種学会に参加・発表	各種学会に参加・発表 論文題目提出
7月	重要な先行研究を検討し投稿論文の作成 に着手する	特殊研究（演習）で投稿予定の 研究論文を発表する	「大学院研究紀要」論文を提出 特殊研究（演習）で学位請求論文の 最終部分を発表する
8月	夏休みの計画に従って各自研究を 進める	夏休みの計画に従って各自研究を 進める	学位請求論文の各部分を遂行し 完成に取り組む
9月	特殊研究（演習）で投稿予定の研究論文を 発表する	論文投稿（所属学会誌）	
10月	論文投稿（『哲学論集』など）	学位請求論文の前半部をまとめ、 中心部の作成に取り組む	学位請求論文提出
11月	学位請求論文の計画を立てる 学位請求論文の作成に着手		学位請求論文発表会
12月		特殊研究（演習）で学位請求論文の 中心部を発表する	「大学院研究紀要」発刊（論文③） 学位請求論文口述試問
1月	論文掲載（論文①）		
2月	1年目の研究成果をまとめ、「研究成果報告書」として提出	論文投稿（論文②） 2年目の研究成果をまとめ、「研究成果報告書」として提出	学位請求論文審査
3月	学内学会の研究会に参加する	学内学会の研究会に参加する	学位授与

【学会について】

哲学、倫理学、宗教学の各分野にわたって関連学会や研究会は多数あり、開催時期もさまざまである。博士後期課程では学位請求論文を目指した研究に専念し、その研究を促進するためには、学内のみならず、学外の学会にも積極的に参加し、またそこでの研究発表や論文投稿が望ましく有益である。各自の研究テーマにより、指導教員と相談の上、適切な所属学会を決めること。なお、学会には、日本哲学会、関西哲学会、日本倫理学会、関西倫理学会、日本宗教学会、日本現象学会、関西教育学会などがある。

【関連学会誌】

『大谷大学哲学論集』、『大谷学報』、『哲学』、『アルケー』、『倫理学年報』、『倫理学研究』、『宗教研究』、『現象学年報』、『関西教育学会研究紀要』など。

※ 3年間では修了できない場合があります。指導教員と相談してください。

I. 履修要領

目的	教育目標および教育方針
教育研究目的	各専攻の人物養成の目的 各専攻の目的と目標
修了要件及び開講科目表	修士課程 博士後期課程 開講科目表
単位修得の認定	単位修得の認定
聴講登録	聴講登録
聴講登録（成績評価）	授業時間 試験 成績評価
規程集	学術交流について 安居を正規授業に認定 大谷大学学位規程 大谷大学大学院履修規程
II. 資格の取得	真宗大谷派教師課程

博士後期課程研究計画（例）

社会学専攻

学年 月	D 1	D 2	D 3
4月		『博士後期課程研究計画書』提出 (2年目の計画・学会発表の計画を含む)	『博士後期課程研究計画書』提出 (3年目の計画・学会発表の計画を含む)
5月	『博士後期課程研究計画書』提出 (3年間の計画+1年目の計画・学会参加発表の計画を含む) 文献収集、フィールド予備調査および長期調査計画の検討、論文①の構想検討の開始	長期フィールド調査開始 調査地の選定	『研究業績書』提出 学位請求論文の3つめの章の執筆、学位請求論文全体構想の練り直し 各種学内外学会に参加・発表
6月	各種学内外学会に入会・参加 随時	長期滞在調査開始	論文題目提出 随時 論文②を『大学院研究紀要』に提出
7月	関連研究の文献目録作成 学位請求論文の研究に着手		
8月	フィールド予備調査 (受け入れ先との交渉等) 随時		
9月		論文②（学位請求論文の1つの章を想定）の執筆	
10月	論文①（学位請求論文の1つの章を想定）の執筆		学位請求論文提出
11月		フィールド中間報告および次年度計画の提出	学位請求論文発表会
12月		学位請求論文の3つめの章の構想検討の開始	『大学院研究紀要』発刊（論文②） 学位請求論文口述試問
1月	フィールド調査計画準備		
2月	論文①を学術雑誌に掲載 1年目の研究成果をまとめ、『研究成果報告書』として提出	2年目の研究成果をまとめ、『研究成果報告書』として提出	学位請求論文審査
3月			学位授与

【関連学会名（開催時期）】

関西社会学会（5～6月）、日本社会学会（10～11月）、日本文化人類学会（5～6月）、比較家族史学会（5月・10月）、日本宗教学会（9月）、宗教と社会学会（6月）等

【関連学会誌】

『大谷大学哲学論集』、『大谷学報』、『社会学評論』、『ソシオロジ』、『文化人類学』、『比較家族史研究』、『宗教研究』、『宗教と社会』等

※ 3年間では修了できない場合があります。指導教員と相談してください。

巻末
科目担当者一覧表

博士後期課程研究計画（例）

仏教文化専攻

学年 月	D 1	D 2	D 3
4月		「博士後期課程研究計画書」提出 (2年目の計画・学会発表の計画を含む)	「博士後期課程研究計画書」提出 (3年目の計画・学会発表の計画を含む)
5月	「博士後期課程研究計画書」提出 (3年間の計画+1年目の計画・学会参加発表の計画を含む) 上記「研究計画書」に沿った研究目的・現況のゼミ発表（修士論文に基づく発表も可）	上記「研究計画書」に沿った研究計画・現況のゼミ発表	「研究業績書」提出 上記「研究計画書」に沿った学位請求論文の章立て・構成の提示とゼミ発表 上記「研究計画書」に沿った研究取りまとめ活動、および学外学会発表
6月	上記「研究計画書」に沿った研究活動、および学外学会発表 ↓ 随時	上記「研究計画書」に沿った研究計画、および学外学会発表 ↓ 随時	論文題目提出 ↓ 随時 「大学院研究紀要」論文を提出
7月			
8月			
9月			
10月	章立て作成、およびそれに基づく研究活動、ならびに学会誌掲載原稿執筆（論文①） ↓ 随時	研究活動、ならびに学会誌掲載原稿執筆（論文②） ↓ 随時	学位請求論文提出
11月			学位請求論文発表会
12月	章立てに基づく部分発表 ↓ 随時	章立てに基づく部分発表 ↓ 随時	「大学院研究紀要」発刊（論文③） 学位請求論文口述試問
1月			
2月	1年目の研究成果をまとめ、「研究成果報告書」として提出	2年目の研究成果をまとめ、「研究成果報告書」として提出	学位請求論文審査
3月	論文掲載（論文①）	論文掲載（論文②）	学位授与

【関連学会名（開催時期）】

<日本文化関連> 大谷大学日本史の会（7月）、日本史研究会（11月）、地方史研究会（6月）、日本民俗学会（10月）、日本宗教民俗学会（6月）、日本思想史学会（10月）、日本古文書学会（11月）、中古文学会（6・10月）、中世文学会（5・10月）、近世文学会（5・11月）、全国大学国語・国文学会（5・11月）等

<東洋文化関連> 日本道教学会（12月）、東方学会（5・11月）、日本中国学会（10月）等

<共通> 大谷大学文芸学会（7月）、仏教史学会（10月）、日本印度学仏教学会（9月）、日本宗教学会（9月）、仏教文学（6月）、説話・伝承学会（4月）等

【関連学会誌】

<日本文化関連> 『歴史の広場』、『日本史研究』、『地方史研究』、『日本民俗学』、『宗教民俗研究』、『日本思想史学』、『古文書研究』、『中古文』、『中世文学』、『近世文学』、『文学・語学』等

<東洋文化関連> 『東方宗教』、『東方学』、『日本中国学会報』等

<共通> 『大谷大学史学論究』、『文芸論叢』、『大谷学報』、『仏教史学研究』、『印度学仏教学研究』、『宗教研究』、『仏教文学』、『説話・伝承学』、『ヒストリア』等

※3年間では修了できない場合があります。指導教員と相談してください。

I. 履修要領

目的	教育目標および教育方針
教育研究目的	各専攻の人物養成の目的 各専攻の目的と目標
修了要件及び開講科目表	修士課程 博士後期課程 開講科目表
聴講登録	単位修得の認定 聴講登録
聴講登録（成績評価）	授業時間 試験 成績評価
規程集	学術交流について 安居を正規授業に認定 大谷大学学位規程 大谷大学大学院履修規程

博士後期課程研究計画（例）

国際文化専攻

学年 月	D 1	D 2	D 3
4月	指導教員と、博士論文のテーマ、3年間の計画、1年目の計画・学会参加について相談する 『博士後期課程研究計画書』提出	2年目の論文執筆計画および学会参加予定を指導教員と相談する 『博士後期課程研究計画書』提出	『博士後期課程研究計画書』提出（3年目の計画・学会発表の計画を含む） 『研究業績書』提出
5月	合同ゼミで学位請求論文のテーマに関する発表をする（テキストの紹介や研究史など） 各種学内外学会に入会・参加	合同ゼミで『大学院研究紀要』投稿論文の発表をする 各種学内外学会に参加・発表	指導教員と学位請求論文の執筆の現状および今後の予定について相談する 各種学内外学会に参加・発表
6月	随時	随時	随時 論文題目提出
7月	合同ゼミで学位請求論文の一部となる内容を発表する（後期の学会発表の準備） 指導教員と相談して、夏休みの研究計画を立てる	『大学院研究紀要』論文を提出 合同ゼミで、学位請求論文の一部となる内容の発表をする	合同ゼミで、学位請求論文の一部となる内容の発表をする 指導教員に学位請求論文の下書き全部を提出し、指導を受ける
8月	後期に学会で発表するための原稿を作成する	指導教員および査読委員の指導のもと、『大学院研究紀要』投稿論文の修正をする	
9月	合同ゼミで学会発表の予行練習をする	『大学院研究紀要』完成原稿を提出	指導教員に学位請求論文の最終稿を提出し、最終的な指導を受ける
10月	後期中に学会発表および学術誌に論文を投稿する（論文①）	合同ゼミで、学位請求論文の一部となる内容の発表をする	学位請求論文提出
11月			学位請求論文発表会
12月	合同ゼミで、学位請求論文に含める次の論文（『大学院研究紀要』あるいは他の学術誌）のための発表をする	『大学院研究紀要』発刊（論文②） 合同ゼミで、学位請求論文の全体構想を発表する	学位請求論文口述試問
1月	後期の最後までに、20,000字程度の論文を仕上げる。『大学院研究紀要』に掲載するか、他の学術誌に発表するかを指導教員と相談する		
2月	1年目の研究成果をまとめ、『研究成果報告書』として提出	2年目の研究成果をまとめ、『研究成果報告書』として提出	学位請求論文審査
3月			学位授与

【関連学会名（開催時期）】

日本国際文化学会（7月）、日本比較文化学会（6月）、日本比較生活文化学会（11月）、比較思想学会（6月）、英米文化学会（3月・6月・11月）、日本英文学会（5月）、日本英文学会関西支部（12月）、日本フランス語フランス文化学会（5月・10月）、日本フランス語フランス文学会 関西支部大会（11月）、日本独文学会（5月・10月）、日本独文学会京都支部（6月・11月）、日本チベット学会（10月）、日本中国学会（10月）、日本印度学仏教学会（9月）、比較文明学会（11月）

【関連学会誌】

『日本チベット学会々報』、『大谷学報』、『インターカルチュラル』、『フランス語フランス文学研究』、『関西フランス語フランス文学』、『日本民俗学』、『ドイツ文学』、『ゲルマニスティック京都』、『印度学仏教学研究』、『中国—社会と文化』、『西洋文学研究』、『英文学会会報』、『東方学』、『日本中国学会報』、『芸芸論叢』、『英文学研究』等

※ 3年間では修了できない場合があります。指導教員と相談してください。

II. 資格の取得

真宗大谷派
教師課程

巻末
科目担当者
一覧表

[6] 博士論文提出のための手続き

博士後期課程修了及び博士の学位取得のためには、博士論文を提出しなければなりません。

論文を提出するためには、前述の研究計画書・研究成果報告書・大学院研究紀要を必ず提出したうえで、次の手順で必要書類・論文を提出しなければなりません。

本学所定用紙の配布及び提出場所は教務課です（後述の「大谷大学学位規程」参照）。

[2018～2019年度博士論文提出関係日程]

提出物等	内容等	後期審査日程	前期審査日程
聴講登録	年度初めの聴講登録時に授業科目と同様に登録	2018年 4月10日(火)～ 4月13日(金)	2019年 4月の聴講登録 期間内
研究業績書 (注1)	本学所定用紙	5月1日(火)	2018年 10月1日(月)
論文題目届	本学所定用紙 (指導教員の承認印が必要)	5月31日(木)	2018年 11月15日(木)
論文作成計画書	研究の内容・方法・参考文献等の概要 (4,000字程度)		
題目変更届	本学所定用紙 (該当者のみ)	10月17日(水)	2019年 4月16日(火)
学位授与申請書	本学所定用紙	10月31日(水) 16:00	4月30日(火) 16:00
学位請求論文	400字詰原稿用紙 300枚以内 【印刷製本したもの6部(データも提出)】		
論文目録	本学所定用紙 3部		
論文内容の要旨	2,000字～4,000字程度 3部 (データも提出)		
学位論文審査料	10,000円		
論文発表会		11月中旬～ 12月中旬	5月中旬～ 6月中旬
口述または筆答試験		11月下旬～ 2019年1月中旬	5月下旬～ 8月上旬
論文の公表方法 に関する申請書	本学所定用紙 (指導教員の承認印が必要)	2月上旬	9月上旬
修了判定		2月下旬	9月中旬
学位授与式		3月15日(金)	9月末

(注1) **[2017年度以降入学生適用]**

「研究業績書」提出時に、主題に関する学術論文が「大学院研究紀要」を含め2点以上公刊されている又は学位授与予定月の末日までに公刊の見込みがあること。

[2016年度以前入学生適用]

「研究業績書」提出時に、主題に関する学術論文が「大学院研究紀要」を含め3点(留学生は2点)以上公刊されている又は学位授与予定月の末日までに公刊の見込みがあること。

※公刊見込みの場合、学位授与予定の2カ月前(1月・7月)に初校のコピーを教務課に提出してください。

1. 単位修得の認定

[1] 授業科目の単位の修得（登録から成績評価まで）

本学大学院では、「単位修得の認定」について「授業科目を履修し、授業に3分の2以上出席した者には、認定の上、所定の単位を与える。」（学則第11条）と規定しています。

すなわち、登録し、受講（授業に出席）した上で試験を受け、合格点（60点以上）を得られればその科目の単位が認定されるということになります。

[2] 授業科目の履修以外の単位認定について

本学では、「授業科目の単位の修得」の他に、以下の単位の認定を行っています。

① 入学前の既修得単位の認定

入学前に修得済みの単位（大学院の開講科目に限る）があれば、申請により修了所要単位の一部として認定されます。

ただし、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 10単位が上限} \\ \text{b. 入学した年度当初にのみ認定} \end{array} \right.$

となりますので、修士課程入学生で該当する希望者は、4月のオリエンテーションでの教務課の指示に従ってください（第4章「2. 大谷大学大学院履修規程」参照）。

② 在学中の他の大学院の授業科目の履修

①のほか、在学中にあらかじめ協定を結んだ他の大学院の授業科目を履修し、単位を修得すれば、それも修了所要単位の一部として認定されます。

ただし、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 10単位が上限} \\ \text{b. ①の「入学前の既修得単位」を認定されている人は、その単位も合わせて10単位が上限} \end{array} \right.$

となります。本学は「京都・宗教系大学院連合（K-GURS）」に加盟し、単位互換の協定を結んでいます。詳しくは、後記「6. 学術交流について」及び第4章「2. 大谷大学大学院履修規程」を参照してください。

※上限は、修士課程と博士後期課程を合わせた単位数です。

2. 聴講登録

当該年度に履修しようとする授業科目の登録の方法・期間等については、学部の「◎聴講登録関連日程」を参照してください。ただし、大学院は、GPA制度を導入していませんので、履修辞退をする必要はありません。

【2017年度以降博士後期課程入学生・2015年度以降修士課程入学生適用】

専攻科目の「特殊研究（演習）」[教育・心理学専攻は「教育・心理学特別研究」]と選択科目の「語学文献研究」については、必ず「a（前期開講）・b（後期開講）」をセットで前期に登録してください。

【2016年度以前博士後期課程入学生・2014年度以前修士課程入学生適用】

主要科目の「特殊研究（演習）」と関連科目の「語学文献研究」については、必ず「a（前期開講）・b（後期開講）」をセットで前期に登録してください。

3. 授業時間

時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:10~13:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	18:00~19:30

4. 試 験

学部の規程を適用します（ただし、再試験は除きます）。

5. 成績評価

- ① 成績は 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とします。なお、履修成績は次のように評価します。

評 価		評 点	判 定 基 準
合 格	S	100 点～ 90 点	特に優れた成績を示したもの
	A	89 点～ 80 点	優れた成績を示したもの
	B	79 点～ 70 点	妥当と認められる成績を示したもの
	C	69 点～ 60 点	合格と認められる最低限の成績を示したもの
不 合 格	F	59 点以下	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの
評価不能	K	—	授業参加や試験について棄権・放棄をしたとみなされ、評価することができないもの

- ② 本学では、成績評価はすべて翌学期の初め（修了者は学位記授与式日）に「履修単位通知書」を本人に配付して通知します。
- ③ 履修単位通知書の見方
- (1) 前学期までに履修した科目の成績が記載されています。
 - (2) 各科目の区分は、第 2 章「1. 修士課程」・「2. 博士後期課程」の〔2〕修了単位で確認してください。
 - (3) 成績評価のうち「N」は外国語の学力認定・他大学等の認定科目であることを表します。集計先に注意してください。また、「J」は修練等の受講を表します。
- ④ 成績評価に関する問い合わせ
- 前期：3月29日（木）～4月12日（木）
 後期：9月20日（木）～10月4日（木）
 （受付時間…窓口開室時間 受付場所…教務課）

成績評価について確認したい場合、この期間に文書にて問い合わせをすることができます。その場合、提出した答案（レポート）や授業への出席日数等を含め、具体的・客観的な理由を所定の用紙に記入の上、提出することになります。

この問い合わせは成績の確認を求めるものであり、「救済措置を依頼する」「個人的事情の考慮を依頼する」という内容は、受付できません。

I. 履修要領

教育研究目的	目的
	教育目標および教育方針
	各専攻の人物養成の目的
修了要件及び開講科目表	各専攻の目的と目標
	修士課程
	博士後期課程
聴講登録（成績評価）	開講科目表
	単位修得の認定
	聴講登録
	授業時間
規程集	試験
	成績評価
	学術交流について
真宗大谷派 教師課程	安居を正規授業に認定
	大谷大学 学位規程
	大谷大学 大学院 履修規程

II. 資格の取得

真宗大谷派 教師課程

巻末 科目担当者一覧表

6. 学術交流について

[1] 単位互換制度（京都・宗教系大学院連合）

「京都・宗教系大学院連合（Kyoto Graduate Union of Religious Studies 略称 K-GURS）は、京都を中心とした宗教系大学の大学院が、それぞれの宗教や宗派の特色を生かした教育プログラムを展開し、次世代の宗教研究者、宗教指導者、宗教に関するプロフェッショナルとなる人材育成を行うとともに、研究上の相互交流を図ることを目的として 2005 年 7 月に設立されました。

加盟校は、以下の大学院及び大学です。（2018 年 4 月 1 日現在）

◎大谷大学大学院	文学研究科
◎皇学館大学大学院	文学研究科
◎高野山大学大学院	文学研究科
◎種智院大学	人文学部
◎同志社大学大学院	神学研究科
◎花園大学大学院	文学研究科
◎佛教大学大学院	文学研究科
◎龍谷大学大学院	文学研究科
◎龍谷大学大学院	実践真宗学研究科
◎龍谷大学大学院	国際文化学研究科

「京都・宗教系大学院連合」では、学生の学習インセンティブを高めるため、加盟校間の協定に基づき、2006 年度より単位互換制度を実施しています。2010 年度からは、「京都・宗教系大学院連合」の独自科目としてチェーン・レクチャーが開始されました。チェーン・レクチャーは、年度ごとの共通テーマに基づいて、毎回、各加盟校の教員が交替で講義を行います。

2018 年度のテーマは「聖典研究の現状と課題」で、前期に佛教大学で隔週金曜日の 5 講時・6 講時に行われます。詳しい講義内容と毎回の担当者については、「京都・宗教系大学院連合」発行のパンフレットを参照してください。

受講できる科目は、各加盟校が提供した科目に限ります。単位互換に関する詳細は、4 月のオリエンテーションにおいて説明します。

単位認定の基準は下記の通りです。

- ① 「京都・宗教系大学院連合」において単位互換協定を結んでいる他大学院の提供科目を受講し修得した単位は、本学における選択科目（2016 年度以前博士後期課程入学生・2014 年度以前修士課程入学生は関連科目）の単位として認定します。
- ② 種智院大学人文学部の提供科目は、受講はできますが単位認定はできません。
- ③ 大学院修了所要単位としての認定は、大学院学則及び大学院履修規程の定めるところにより、在学期間中（修士課程、博士後期課程合わせて）10 単位を超えないものとします。また、入学前の既修得単位を認定されている人は、その単位も合わせて 10 単位が上限です。
- ④ 修得した単位を教職課程（教科に関する科目）の単位として換算することは認められません。

異なる宗教同士が、より広い研究上の知見に立って、それぞれの研究を深めていくため、学術情報の交換、国内外の研究者との人的交流、共同の講演会・シンポジウム等を行っています。

[2] 大学院特別セミナー

本学ならではの資産である仏教研究の蓄積と成果をもとに、仏教学・人文科学・社会科学の学術研究の高度化と国際交流を図るために、本学大学院では、国内外において学界の第一線で活躍しておられる研究者を客員教授として招き、特別セミナーを開講しています。このセミナーは他大学の研究者や大学院生にも開放しており、本学大学院が国際的水準の学術交流の場となることをめざしています。

詳細については、教務課で確認してください。